

丸森町耕野地区 人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
丸森町	耕野地区(川向、茗茄沢、大和沢上、大和沢中、大和沢下、共愛、立石、協栄、金山、入区、芦沢、東部)	令和4年3月18日	

1 対象地区の現状

地区内の耕地面積	195.9ha
アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	98.9ha
アンケート回答者の地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	44.2ha
うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	28.7ha
うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	ha
地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.7ha
(備考)	

2 対象地区の課題

現状は、中心経営体が様々な作目に取り組んでおり、それぞれが個々の営農を行っている状況であるため、協力体制を構築することが難しい。また、作目によっては担い手が不足しており、新たな担い手の確保が必要である。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中心経営体が様々な作目に取り組み、個の力が輝いている地域であるため、集落営農による集積・集約化は難しいが、各経営体が複合的な連携を図ることで、地区全体の農業の発展につなげていく。その中で、新たな就農者も呼び込みながら、集積・集約化を図っていく。

注:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

(参考) 中心経営体

8 経営体

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

<p>農地中間管理機構の活用方針 将来的には、一定程度のまとまりの中での経営農地の集約化を目指し、農地を貸付けする際は原則として農地中間管理機構を活用する。</p>
<p>中心経営体の連携方針 集落営農による連携は地域的に難しいが、柿などでの協業化の検討や、各経営体が個々の営農活動を行いながらも、イベントや販売戦略などで連携を図ることで、地区全体の発展につなげていく。</p>